

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和3年1月22日（金）
9時56分～11時48分
第4委員会室

- 【出席者】三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員
- 【事務局】近重係長、小寺書記
-

議題

- 1 (仮称) はまだ市民一日議会について…………… 資料1
 - (1) 名称決定、ルール、周知、募集
 - (2) その他

- 2 SNSによる情報発信について…………… 資料2
 - (1) 運用方法提案
 - (2) その他

- 3 地域協議会との意見交換会について…………… 資料3
 - (1) 実施内容提案
 - (2) その他

- 4 その他
 - (1) 委員会開催日程の変更について（提案）
 - (2) 読者アンケート回収ボックスの確認について

【議事の経過】

[9時56 分 開議]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始める。出席委員は10名で定足数に達している。本日はその他含めて4項目が議題に上がっている。順次進めていくのでよろしく願います。

2月1日号が発刊された。だんだんよくなってきたかと思う。引き続きご協力いただきながら、よい紙面づくりを進めていきたい。

1. (仮称) はまだ市民一日議会について

(1) 名称決定、ルール、周知、募集

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 先ほど配信された、はまだ市民一日議会について(1)から順番に協議していきたい。

まず名称。今まで仮称を使っていたが、何かほかによりタイトルがあればご提案いただいても結構だし、このままでよいのではないかということであればこのままいきたい。

野藤委員 私はこのままでよいと思う。先ほどどこで区切るかという話もあったが、一番わかりやすいというのと、別に切る必要はないと思う。

川上委員 私もこれでよい。読み方だが、切るか切らないかは別にして、「はまだ、市民一日議会」という感じになるかと思う。

三浦委員長 ほかにないか。ないようなので「はまだ市民一日議会」ということで決定させていただきたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では2番目に移る。11月16日の全員協議会で出た意見に対して、対応を検討するものである。上から行くと、布施議員からご意見があった。年齢枠や女性枠、これを用意するかどうかというものである。これについて皆の意見を伺いたい。

川上委員 多数であれば抽選するというがあるので、公平性を考えれば枠を設ける必要はないと考える。

野藤委員 初回なのでどのくらい来るかもわからない。枠を設けて応募がなかったらあれなので、一応最初はなしで、次回から変えたり設けたりしたほうがよいかと思う。

- 小川委員 様子を見るということによいと思うが、年齢の関係で子どもも対象かどうか今まで議論があった。年齢制限は特に設けないなら枠は設ける必要はないと現段階では思う。
- 笹田委員 布施議員は、同じ人が何回もする可能性があるのではないかといい言われたと思う。年齢制限はいらないが人数が多かった場合に1回した人がまた抽選に当たるのはどうかと思う。多かった場合に1回当たった人を次どうするかといったルールを議論する必要があるのではないか。私は布施議員の意見をそのように理解している。
- 三浦委員長 ルールは第1回を開催する前に決めておいたほうがよいというご意見か。
- 笹田委員 はい。最初から決めてないのだから2回目、3回目いけるのではないかといいところもある。ただ、人数が少なかった場合は2回も3回もという可能性はあるので、やってみないとわからないというのはいちろんそうなのだが、ある程度のことはしておかないと抽選で連続で当たった場合どうなのかという事態が出てくるのではと危惧する。
- 三浦委員長 その場合はどういうルールになるだろうか。年齢や団体の活動分野など、より多様な感じになるように、多い場合にはこちらで選定させていただくと言うのもなかなか難しい。公平性というか。
- 笹田委員 簡単に言えば、1回やった人は次回どうなるかを議論すればよいだけだと思う。ただこれは年1回だから、心配しなくてよいかもしれないが、好評で年2、3回やりだしたら、そういう状況になる可能性がある。そこを考える必要はないと言われるかもしれないが。
- 三浦委員長 応募多数の場合には次回以降、初回の方を優先させていただくといったことか。
- 笹田委員 そういうこと。
- 三浦委員長 笹田委員からご意見があったが、それも含めて皆はいかがか。
- 川上委員 年1回なので別によいと思う。ただ、笹田委員の言われることもわかるのだが、今回はこのままでよい。
- 野藤委員 特定の極端な意見の方が出られて、発言内容の可否判断というのがあるので、その辺もきちんと決めておかないといけないのかと思う。よほど極端なものでない限りは制限するものでもないが。
- 川上委員 年1回だから気にしなくてもよいと思う。
- 野藤委員 年1回でもインパクトが強いと大津波になるので。例えば公序良俗などいろいろ、最低限のルールを決めておいたほうがよいのかと思

澁谷委員

う。何でもよいわけではない。

要するに議会ルールと同じ。誹謗中傷や個人攻撃など、そういうのは大原則としてあるわけだから。それに5分だろう。常識的なところにおさまると思う。思想が極端に右左に寄っていた方が出たときも、それなりの議会ルールがある。奇声を発するとかでなければ問題はないように思うが。第1回をやってみない限り、どういう感じになるか全く見当がつかない。学校にアプローチするなどしないと、そんなに多くの方が出られるのか見当がつかない。

三浦委員長

そのほかにいかがか。

佐々木委員

笹田委員の意見で最後に委員長がまとめられたような、最低限のルールづくりはやっておくほうがよいと思う。それに当てはまることはそれほど考えられないとは思いますが、最低限のルールは決めておいたほうがよい。

また、年1回、第1回目ということで、簡単な周知では出る人が少ないだろう。個々の投げかけや誘導が必要だろう。その中でいかに出やすい環境をつくってあげるかは大きな課題だと思う。その辺も含めて、どんどん出てくればさらに深いルールづくりは必要かと思う。

村武委員

私も最低限のルールづくりは必要だと思うが、第1回目ということなのでまずはやってみるのが大切なのかと思う。

芦谷委員

前に進むのはよいことだが、昔子ども議会や女性市議会などがあったがいつの間になくなっていく。これも仮に年1回やるとしても大変だと思う。できれば公募して、こちらがつくってあげて云々というのが、その場でとどまってしまう。何となく毎年うまく回るような形をどうすればよいかと考えたのだが、今ぱっと思ったのは、議員のネットワークや委員会の中で、ある程度人を発掘して行って、それなりによい形になるように仕向けないといけないなど。いきなり公募だけでうまくいくとは思えない。しつらえをどうするかが気になる。あと、2年目、3年目の方向性も気になる。いずれにせよ頑張る。

野藤委員

芦谷委員が言われたように、以前はある程度人数枠があって、いろいろな団体をお願いしながら仕込んでいったというか、ある程度人数を確保していたのだが、このたびは公募をかけて、状況によっては団体に声をかけるということはあるか。

三浦委員長

公募だから声をかけてはいけないということはないので、広く市民に働きかけをしながら議員個人のネットワークなどで、こういう団体に「市民一日議会をやるから、ぜひ出て、今の状況をお話しいただけないか」といった働きかけは、やるべきだと思う。佐々木委員や芦谷委員、また野藤委員もそこはご指摘の部分だと思うが、できるだけ周知はしっかりしないと、初回でもあり、ただ単にやると言うだけでは集まらないと思う。今後チラシなどができて声かけをする中で、この委員会が中心になって、自分はこういう団体に声をかけてみようとか、あるいは地域の活動をこのようにしておられる方がいるので、その周知も含めて自治会長に声をかけてみるということが共有されていけばよいのではないかと思う。

もちろん議会全体でやることなので、これは正副議長にも相談しながら、また、全員協議会で全議員に周知もさせていただいて、呼びかけにご協力いただきたいという趣旨は伝えたい。

野藤委員

議会に注目してもらって、広く市民の方に知っていただくというのが目的にあるので、我々も青年団体や商工団体など、いろいろなところへ声かけをして、関心を持ってもらうようにしていきたい。

笹田委員

そこで一番気をつけておかないといけないのが、あくまでも公募であり抽選なので、声をかけたはよいが抽選に外れた場合、相手の方はよく思わないはずである。各々の議員がお願いして集めても24人いる。10人しかできないとなったら問題かと思うので、そのあたりもお伝えしながらやらないと、議員からお願いされたからできるのだという話になると難しい話になると思う。ルールづくりではないが、声をかけたほうがよいができなかったということにならないように、ある程度はやっていかないと信頼にもかかわってくることはないかと思う。

三浦委員長

応募者多数の場合には抽選を行うということはどうしても周知するものなので、もちろん声かけをするときも、出てほしいが、ただし多数の場合には抽選になる可能性があるということは伝えた上で周知すべきことだと思う。そこを調整しながら声かけしていくのはなかなか難しいと思うので、枠はこのように決まっているが広く周知するのが前提かと思う。チラシを渡しながらルールや応募条件なども説明した上できちんとやらないと、場合によっては誤解などが生じるため注意しないといけない。

笹田委員

仮に多い場合と少ない場合を考えると、少ないときには武器になる。例えば議員がお願いした人にはやってもらうとか、2人はやってもらうとか、何かしら少ないときのための方法としてはそういうやり方もありかと思うが、多くなってくるとマイナスに働く場合もある。少ないときにはかなり武器になるが。少ない場合は5人のお願いした人にやってもらったほうが、1日が無駄にならずに済む。例えば2人ならすぐ終わる。そういうときはそういったルールが使えるかと思った。いろいろ想定しながら考えた場合、いろいろなケースを考えてルールづくりをしたほうがよいと個人的に思う。

西川副委員長

最初はわからないので、それほどたくさん来るとは私も思っていないが、まずは期間の前半は公募だけにしておいて、応募状況を見て後半は議員が動くようにするとか。また、1回やった人の再登場のルールがあったが、もしかしたら抽選に漏れた方は次回は優先してできるといったルールもつくっておくなどしたらよいと思う。まずはどのくらい来るかだが。

三浦委員長

あとは最低限のルールというのも、どこまでが最低限なのかは線引きが難しいと、話を聞きながら個人的に思った。今副委員長が言われたように、抽選に漏れれば次回は優先的にとか、そのあたりを決めておく必要があると思った。

澁谷委員

芦谷委員が言われて、ああそうなのだと思ったので、最初の発言とは違うように思われるかもしれないが、行政がやってきた女性議会や子ども議会や一日議会が長続きできなかったのには理由がある。前の調整にすごく時間がかかる。皆集まってどういう質問をされるか確認して、その文章を提出いただいてチェックして、重なっている部分を調整する。そういうエネルギーが結構かかって長続きできなかった。担当課の仕事がプラスアルファになるので。今回議会がやる分の申し込みについて、どこまで信用して、原稿を提出していただいてチェックしなければいけないとか、ルールについての常識的なことをレクチャーしなければいけないかもしれないし、そういうことをやっているとかかなり手間がかかってくる。そうすると各議員のエネルギーも肩にかかってくる。どこに落とすのかも、考えれば考えるほど難しくなっていく。

野藤委員

このスケジュールで見ると、発言内容の可否判断が申し込み締め切り後になっている。申し込みのときにある程度、こういうことを

- 述べたいといったものがないといけないのではないかと思う。それがあってなおかつ抽選があるというのもまたあれだなと思った。
- 三浦委員長 抽選は一日という時間が限られているのでするものであって。
- 野藤委員 抽選はランダムにするのか。
- 三浦委員長 抽選である。
- 野藤委員 発言内容は二の次にして抽選して、それから発言内容ということになるのか。発言内容をある程度優先して、その後に抽選をするわけではないのだろう。
- 三浦委員長 それはなかなか。市民それぞれが持つておられる意見は尊重すべきだと思うので、議会がその内容を精査するのは難しいかと思う。
- 野藤委員 初回でわからないが、その部分は何かよい方法がないかと思う。
- 三浦委員長 できるだけ拾い上げてというのもあるし、時間が限られているというのと、今は想像で話しているので実際にどのくらいの方が集まるかは、うれしい悲鳴が上がるかもしれないし。ただ、先ほど澁谷委員が指摘された、なぜ以前行政がやっていたものが続かなかったのか、前段部分のエネルギーがかなりかかったという点だが、市民一日議会の開催目的は幾つかある中で、議会報告会はグループで伺うので、その地域に当たらなければその方々の声を直接聞く機会がないということもあり、ここに来ていただいて議員全員で話を聞こうということも前段で少し触れている。できるだけフリーでお話しいただく形でもよいのかなと個人的には思う。仮に奇声を上げたり大声上げたりということがあれば、それは議会というより通常のルール上、場にそぐわないということで、そのあたりのルールはあると思うが。できるだけクリーンな形で受け入れるスタンスで初回をやってみる感じでどうかと思うのだが。
- 笹田委員 委員長が言われた内容でよいと思うが、ただ最低限のルールについて個人的に思うのが、今まで議会報告会とかいろいろやっていて人が集まらない。集まらないでやっても意味がない。やはり開くなら最低限人が来てもらう仕組みをつくらないと意味がないと思っている。何でもよいと言って集まらなかったら同じになる可能性がある。議員の声かけもしっかりしておかないと、開催したはよいが3人で終わったとか。そうすると澁谷委員が言われたように尻すぼみになっていく。年1回なのでこの程度かとなって。最初は盛り上がったけど。そうするとやる意味がない。最低限何人か人を集めてやって

芦谷委員

いくというルールをつくっておかないと。ルールというか方式を。でないと難しいかと。何もなければ数人しか手を挙げてこないだろうということは安易に想像できるので、人数を集める手段を考えながら、市民のために遂行していく方法を我々が考えるべきだと思う。

三浦委員長

議場に出てやってもらって、問題はその先にその発言を踏まえて市がどう変わるかをイメージしておかないと、話を聞いているとただ出演していただいて終わりみたいなことなので。市民の声をしっかり市政に反映して、やってもらったことをぜひ施策化するというところまでイメージをしておく必要があると思う。

芦谷委員

全員協議会で発言内容の取り扱いを協議して、この前全員協議会でお話しさせていただいたように、犬山市の様子も見ていただいたが、個人の議員が取り扱ってサポートするもの、あるいは委員会が取り扱うもの等々を全員協議会の場で決めていく、ということ公式にやって、発言者に対応経過をきちんと戻していくことがスケジュールの中にも想定されているので、まさに今ご指摘された部分は非常に重要だと思う。

三浦委員長

やろう。

今出たいろいろなご意見については、規程という意味でのルールと、笹田委員からあったような目標というか、これくらいは人を集めてやろうというような目標みたいなものも含めて、少し整理してまた皆に申し添えるという感じでどうか。

(「それでお願いします。」という声あり)

ではそのように、少し相談させていただきたい。年齢枠や女性枠の用意というのは、広くということだったが、応募者多数の場合の対応など、考え方を整理していきたい。

(2)については以上でよいか。

(「はい」という声あり)

では(3)に移る。先ほども少しスケジュールに触れたが、このような形で進めていきたいが、いかがか。このあたりでこういうことをやっておいたほうがよいといったことはあるか。これは大枠のスケジュールなので、細かい予定はこの後に付加されていくと思う。

小寺書記

応募申し込みを締め切った後に議会広報広聴委員会を開いて、発言内容の可否について判断すると想定しているのだが、先ほどの話だと広くやってもらうことが前提にあるなら、その辺の必要性はど

うなのかと思った。申し込みがあった段階で線引きというか、内容確認は当然、テーマと内容を書いていた上で申し込みいただくので、先にできる部分でもあるのかといったところも含めて、再度ご協議いただきたい。

三浦委員長 申し込みがあったときに1件1件、それがどうなのかというのは委員会が召集されるわけではないのだろう。

小寺書記 はい。

三浦委員長 基本的には申し込みを受け付けて、受け付けたものに対して委員会を一応開いて、そこで可否判断というか、こういうものが出ているということを確認しながら発言者を正式に、応募に対してこのように決定したという委員会は招集する必要があるかと思う。受け付けたということは確認というか、皆はどうか。

小川委員 可否判断というのは重そう。そうではなく発言者を決定するとか。多数なら抽選にしてこの人とこの人に決まった、抽選のやり方も公平にしなければいけないということで、こちらの意思でバランスを取るといったことは、なしにしたほうがよい。こういう内容で出されたこういう方が決定されたということを確認する場としては、委員会が必要かと。可否判断となると議会広報広聴委員会の意思が働き過ぎて、フリーという趣旨からずれる気がする。

西川副委員長 可否判断というか、応募要項に浜田市のことや、応募者が浜田市に住んでいるとか、そういう条件がある。その条件だけを事務局に確認してもらって、それが最終的な可否判断でよいのでは。

小寺書記 それも含めてにはなるかと思う。

小川委員 内容がどうこうではなく、要綱に基づいて出されているかということか。

西川副委員長 内容は市政に関すること、議会に関すること、国県に関することはご遠慮くださいと書いてあるので、また公序良俗に反するとか、その辺だけでも受付時に判断できると思う。

野藤委員 4月中旬から受付で6月9日に締め切りということだが、議会事務局が集約をされることになっている。例えば1週間や10日くらいに現在の状況を、各候補の委員会に通知すれば早目の判断ができるので、そういう情報はいただきたい。

三浦委員長 適宜情報共有しながら。

小寺書記 応募があった段階ごとでもやる気持ちでいる。

- 三浦委員長 ということで6月11日に予定している委員会の括弧内の部分の表現を少し変えていただいて、スケジュールはこれに従って進めていきたい。
- 小寺書記 澁谷委員からあった、女性議会や子ども議会の前段の調整みたいな部分だが、一応の想定としては発言者が決まった段階で打ち合わせをするようなことも前に触れたのだが、これはどう思われるか。前段での労力を考えると、そこは抑え目にして、応募いただいたテーマと内容を見た上で大丈夫という判断にするのか、初回ということもあるし、一度お会いして話を聞いてみる機会の設定が必要かどうか、皆からご意見をいただきたい。
- 野藤委員 それは一度しておいたほうが。例えばここでこう発言して、呼ばれた挙手してなど、そこまでやるかどうかはわからないが、ある程度の流れみたいなものは説明されたほうがよいのではないか。例えばこれはY o u T u b eで流すということもうたって。事前に実際の現場を見ていただいたほうがよい気がする。
- 佐々木委員 犬山市はどうやっていたか。
- 三浦委員長 前段の準備についてはわからない。
- 佐々木委員 多分議長が誘導するだろうから、それほど難しいことではないと思うので、形として設定しなくてもよいのでは。
- 野藤委員 当日傍聴やマスコミが来ているのに、初めてやることで戸惑ったりしていたら格好が悪い。
- 三浦委員長 もちろん当日に少し前に集まっていいただいて、段取りについては説明をする。
- 野藤委員 それが事前の分かと思ったりする。全くなしで集まってきて、はいどうぞ、みたいな感じではないと思った。どこまで説明するのか。
- 三浦委員長 動き方などは当日のご案内で大丈夫かと思うが、応募される方によっては原稿の中身について少し尋ねてこられる方もいるかもしれない。それに対しては少し対応を考えておく必要があるかと思う。ただ、積極的に事前に原稿を提出して、それに対して特定の委員が担当を決めて中身を見ていくという、そこまでのことはフリースピーチとしてはやらなくてよいかと。
- 野藤委員 当日まで、どういう内容を話すのかのチェックは全然なしか。
- 三浦委員長 要旨は事前に出していただくので、一言一句を確認することは基本的に想定していない。

- 野藤委員 大体のあらすじだけチェックされるのか。
- 三浦委員長 はい。そこを含めて先ほど申し上げたように、こちら側でどういうサポートが必要なのか、ルールが必要なのかをまとめて皆にまたお話ししたい。
- 佐々木委員 テーマのことだが、浜田市政や議会にかかわることとなるとかなりかたく重いイメージに取られやすいのではないかと思うので、もう少し柔らかく、生活においてお困りのことなど、そういうイメージのほうがやりやすいのかなど。特に子どもたちは。テーマについてはもう少し工夫して発信する必要がある。
- 芦谷委員 議会目線で、執行部目線で、あまり手取り足取りするよりも、率直な市民の生の声を言ってもらおうように。あまりこちら側が力を入れすぎると何かつまらない話になってしまいそうなので、生の声が良い。
- 三浦委員長 佐々木委員からご指摘のあったテーマについては、チラシのところで一緒にご意見を伺いたい。
- (3)のスケジュールについては、おおむねこれで進める。
- (4)の周知についてはを先にさせてほしい。議会だより5月1日発行予定の61号に情報を掲載する。浜田市議会ホームページに掲載する、広報はまだは未定、石見ケーブルテレビは浜っ子タイムズ4月とスタジオ石見への申し込み、チラシ配布となっている。これに限らずできることはやるスタンスだが、6月の広報はまだに挟み込みできないか、それも併せて。チラシの挟み込みができたほうがインパクトは強いと思う。ほかに周知方法についてご意見があれば。
- 野藤委員 車の後のバナーはどうか。
- 小寺書記 市役所の公用車にということか。
- 野藤委員 全部の車にとは言わないが、何台かにつけて走ってもらう。
- 三浦委員長 有料だったような。
- 小寺書記 いえ、市の事業ということでやるなら行財政改革推進課と協議した上でやるということだと思うので、できないことはないと思う。
- 村武委員 チラシ配布だが、ぜひ子育て支援センターに置いてほしい。
- 三浦委員長 またチラシの配布先は一覧表をつくって共有したい。
- (「はい」という声あり)
- では周知については先ほどの追加アイデアのほかにもあればぜひ共有していただきたい。

チラシに移る。日付も出ているが先ほど佐々木委員からご指摘があったテーマの協議など、そういう点についてご意見があれば伺いたい。申し込み方法は事前に説明させていただいた中身がそのまま入っている。

川上委員

参加制限なしと書きながら、なおかつ在住云々書いてある。一つにしたらどうか。テーマについては先ほど言われていた、生活にお困りのこと。

佐々木委員

一応イメージなのだが、例えばこのような案件、このような内容というのはある程度示したほうが、出しやすいと思う。

三浦委員長

参加制限とテーマ、ここの表現についても預かる。

先ほど、一度お預かりしたいと言ったルールについては、ものによっては注意事項やこちらに記載しておいたほうがよさそうなものが出てくると思うので、一応検討して皆にご確認いただき、それをチラシにも反映する形で修正をかけたい。そのような形でよいか。

(「はい」という声あり)

ではその部分について修正をかけてまたご提案したい。

(2) その他

三浦委員長

はまだ市民一日議会について、ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

では議題2に移る。

2 SNSによる情報発信について

(1) 運用方法提案

三浦委員長

西川副委員長からお願いします。

西川副委員長

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

ご提案に感謝する。皆、率直な意見を。

野藤委員

千代田区の議会公式アカウントの話があった。議会情報だけ出ているとのことだが、それが議会としての公式ツイッターの役割だろうと思っている。目的にもあることを考えると、議員のつぶやきは個人でやっていただいたほうがよいのでは。議員のつぶやきの容量が多いようなことを言われたので、どうかと思う。

西川副委員長

ここは指摘があると思っていた。今はホームページがある。つながる人を増やして、つながる人に情報を伝える。つながる人を増や

す方式としてこのように親しみやすいものを考えてみたので、もちろん公式なデータは伝えるのだが、それだけだと読者が増えないのではないかと思い、特に若い世代に向けて何か常に。ツイッターだと常につながるので、そういう関係をつくりたいという意図があった。おっしゃることはわかる。

小寺書記

補足というか、議員のつぶやきを入れようと思ったいきさつは、市民からのお声の中に議員の顔が見えないというのが結構ある中、議会全体として議員の情報を発信していくことに関して、今回新たにSNSを始めるのであれば、議会全体として議員を紹介していくイメージで、議員のつぶやきというものを今回入れさせていただいた。内容は多岐にわたってくると思うのだが、それを公平な立場で、全議員でやることを提案している。

澁谷委員

やる前から問題が起きることが目に見えている。このようなレベルのつぶやきは、浜田市議会の名誉を毀損するのとか、いろいろな意見が出て收拾がつかなくなる。だから皆個人でやっている。成功しているところがどこかあるのか。必ず問題が出る。人間は完璧ではないし、好みやいろいろな意見が出てこないと面白くない。しかしそれが議員としてどうなのか。

野藤委員

私もそこまでは言わないが同じことを思った。公式ということは結局議長が責任を持つことなので、議員が署名してつぶやいたにしても、責任者は議長になるのでまずいと思った。炎上するかはわからないがいろいろな意見が出ると思うので、公式では難しいかと思う。

小川委員

議員のつぶやきで趣味などを書いたとしても、それを知りたい市民がどれだけいるかというのもあるのだが、これを見たときに僕が思ったのは、これは恐らく広報機能であって、広聴の部分はどうか。一応コメントは返信しないこととなっているが、このコロナ禍において自死される方が増えていて、そういう気持ちになったときにスマホを見て、行き場のない気持ちをSNS上でどこかに気持ちを投げかけたい、そういう人たちの声を集約する機能が今ないのではないかと感じた。そういう人からのコメントを、返信するかどうかは二の次で。市長直行便、議長直行便でそれができるかといえ、そういうものでは多分ない。議会としてそういう部分があれば手法は今の時代に合っている、広聴機能のチャンネルを一つ増やす

とすれば、ネット上でそういうことも仕組みとしてできないかも考えたのだが、考えたときにこれでは問題がすぐ出るだろうと僕自身も感じた。それぞれのつぶやき以外のところはよいと思う。

村武委員

ツイッターは目的のところにも書いてあるが、若者をターゲットにという意味ではすごく有効な手段だと思う。議会そのものにもあまり関心がない若者に対しては、読む読まないは別にして情報を届ける、目に触れていただくということはできるのかなと思う。議員がどれだけ個人のツイッターをされているかわからないが、各議員がもしされていたら、公式をフォローすることによって、また、公式のツイッターが拡散されると思う。

内容については、議員のつぶやきを入れてしまうと公平性を保つことを考えたとしても、これから例えば10月に選挙があるので、それに向けての投稿する時期などが関係するかもしれない。もしやるとしたら議会の日程や、たよりを載せていくなど、とりあえず発信していくことをやってもよいのかなと思う。ただその場合、議会事務局が負担にならないかどうかは気になるが、今の若者はツイッターをかなり見ている。フェイスブックはほとんどされていない。インスタグラムかツイッターは長時間見ている。そこに上がってくると目に触れるかと思う。

笹田委員

僕は公式ツイッターをやるなら完全に広報だけでよいと思う。今はSNSも結構怖い。誹謗中傷などが問題になったりする。こちらもいつ対応するのかなど、問題が出てくるので、こういうのをやるなら一方的に発信する、情報提供のみにしないと難しいのではないかな。

議員のつぶやきについては個人的にはおもしろいと思う。見てもらう人を増やそうと思えば。ただ先ほど言われたような危惧をどう改善するか、もし改善できるのであればやればよいし、できないなら完全に情報公開のみで使うべきである。

芦谷委員

議長メールはどれくらい来ているのか。

小寺書記

最近はあまりない。ここ半年くらい来てない。

芦谷委員

せっかくあるのに。今言われたように、一方的に日程などを発信するのはよいが、全員が出ようと思えばなかなかそうもならない。

佐々木委員

皆が懸念されている意見と同じなのだが、公式でやることの難しさがある。浜田市議会もそうだし全国の議会も、何とかこのSNS

で若者にアプローチするために利用できないかとやってみるのだが、いろいろなリスクや問題があるので躊躇する傾向にある。ただ、内容を精査すればよいとは思いますが、それを精査してきちんとしたものを市議会の公式として発信する、この労力はものすごいので、事務局にそれをお願いすることもできないし、我々がやるのもなかなか大変なので、それがクリアできればよいと思うが難しい2い。

川上委員

公式は非常に難しい。問題が起きるようなことはしたくない。

三浦委員長

いろいろと意見をいただいたが。

西川副委員長

勉強になった。情報を届ける手段であればツイッター、インスタグラム、フェイスブック全て連動して情報を流すことだけすれば、それなりに情報は飛ぶのではないかと思うが、あまり拡散力に期待はできないかと。皆の意見を参考にもう一度案を出させていただく。

村武委員

ホームページで新着情報の部分は、アップされたら新着に載る。ここに載っていることは公式で出されているものなので、それだけでも出すのもありかと思うが。ホームページを直接見に行こうという人は多分少ないと思うので、そこに導入する手段としてはツイッターが有効なのかと思う。

三浦委員長

今は議会だよりやいろいろつくっているが、こちらから情報を届ける唯一のツールが議会だよりで、ホームページは探しに来た人が情報を得るものである。デジタルメディアとして議会から働きかけているかという、今はそれができてない。議会だよりminiはつくっているが、あれは掲載しているだけなので。その情報を発信する議会側の力が弱いと思う。ツールとしては有効だが、そこにどんな情報載せるのかは、皆のご意見とご指摘、ごもった部分があると思うので、ツールの活用については引き続き検討することとし、内容を含めて。こういう形で使ったら有効なのではないかということは、どのメディアを使うかも含めて。

西川副委員長

情報をこちらから届けるには有効な手段なので。公式に載せる情報、また更新頻度が少ないものは皆見ないので、頻度がある程度稼げるような公式情報をピックアップする方法も含めて検討したい。

三浦委員長

引き続きよろしく願います。1時間経過したが休憩を挟んだほうがよければ休憩を入れるが。

(「休憩を入れよう」という声あり)

では10分から再開する。

[11時 05分 休憩]

[11時 11分 再開]

3 地域協議会との意見交換会について

(1) 実施内容提案

- | | |
|-------|--|
| 三浦委員長 | 再開する。小寺書記から説明をお願いする。 |
| 小寺書記 | (以下、資料をもとに説明) |
| 三浦委員長 | 実施概要についてご意見をいただきたい。 |
| 川上委員 | 今年度実施される地域協議会はもうほとんどなくなってきた。テーマがあれば別だが。それについてはこういう説明もよいと思うので、各自治区の防災自治課に、開催されるかどうか確認すればおおよそわかるので、しっかりつかんでいただき出向いて説明されるのはよいと思う。 |
| 三浦委員長 | ちなみに各自治区の今年度中の開催はどのくらいあるだろうか。 |
| 小寺書記 | 1、2回くらいあると聞いているのだが、金城はこの前あった。浜田自治区については、もうされないかもという情報が来ている。その場合は年度当初に開催される場での説明になるかもしれない。 |
| 三浦委員長 | そのほかいかがだろうか。 |
| 野藤委員 | 来年度から本格的にやるとのことだが、議員の中からは来年度からすることへの懸念というか、自治区制度が廃止される前提でいろいろなことが起きるのではないかという懸念を聞いている。 |
| 三浦委員長 | 来年度に自治区制度が終わって。 |
| 野藤委員 | 地域協議会にも変化があり、全議員が対応することに対する懸念というか、要望が大量に出てくるのではないかということは気にしておられる議員がいる。 |
| 三浦委員長 | それは制度が変わることによっていろいろな声が出てくるのではないかということか。 |
| 野藤委員 | はい。今まで自治区長などが吸い上げていた。各選出議員が言われていたものが変わってくる状況と、来年度は議会の改選もあって、そういうことを懸念されている。そういうこともあるので、来年度の時期にもよるのだが、どうなのかと。 |
| 三浦委員長 | 制度が変わって逆にいろいろな声が出てくるときに、むしろ聞くべきではないか。 |
| 野藤委員 | そういうこともある。私はそれほど気にはしてなかったのだが、やり方として自治区選出の議員がそこに入るべきなのか。手法が気 |

になる。例えば地域井戸端会でも、基本的に地元選出議員は入らなかつただろう。

川上委員 自分は入ったが。確かに翌年度は選挙の年だが、同時に自治区制度も廃止されるので、逆に廃止されて問題点が起きてくるのであれば、それを吸い上げる機会としてやったほうがよい。

野藤委員 もろ刃の意見が出ると思う。私はやっても構わないと思うが、そういうことを言われる方もおられる。この委員会で一応意見を言ってくれと。

三浦委員長 懸念とはどういった懸念なのか。

野藤委員 直接圧力がかかったようなご意見が出るのではないかと。私もよくわからない。そういう懸念を持っている方がおられるという話なので、私が圧力を感じているわけではない。

澁谷委員 よくわからない。

野藤委員 その方がそのように思っておられる。

芦谷委員 野藤委員が言われたのは、その議員の事務所ないし出身地域の地域協議会との関係の中で、ある程度その議員がここは面倒を見させるということなのか、早い話が。

野藤委員 それもある。

澁谷委員 それが機能していないから寂れているのである。全員が聞いてより一層対応するために議員が出ていくのではないか。

芦谷委員 よく議論になるのだが、往々にして議員が自分の出身校や地区をおもんばからないといけないという話がある。全圏一区なので誰がどこに何をしようと、そんたくや干渉する話ではない。

三浦委員長 ほかにはいかがか。

佐々木委員 やり方なのだが、我々が行って次回のテーマを照会するのが第1回目に入るのか。

三浦委員長 地域協議会が今年度あと1回あるかないかのタイミングでもあるので、実際にこういう会を実施するのは来年度になるだろう。その前段として来年度こういう取り組みを皆にお願いしながらしたいというアナウンスを、今年度中に会議があるなら出向いて行って話しておいたほうが、来年度スムーズにいけるのではないかと、そういう会を持ってもよいかと。

佐々木委員 旧町村はもう1回あって、浜田はないかもしれないので、浜田についてはどこかでテーマを投げかけておいて、来年度に入ったときに

テーマに沿って議論するというやり方がよい。

今はまちづくりの形が大きく変わる年度なので、自治区制度がなくなって公民館もまちづくりセンターに移行されて、そのことがテーマになる可能性が大きい。野藤委員はそういう感じになると圧力になるのではと言ったが、それを圧力と受け止めるかどうかは各議員の価値判断もあると思う。むしろそういうのを積極的に聞いて、執行部に言っても響かないようなところに我々がどう取り組んでいけるか。地域協議会としてもそういうところを求めていると思う。

もう一つ、市民一日議会について地域協議会にもぜひとアピールするのも大きいと思う。

三浦委員長

実際に順番としては、上の内容について今年度、各自治区の地域協議会へ出向くのも、前段に議長に相談して全議員にお話をした上でになる。皆に相談した上で進めていきたい。

ほかに何かあるか。

西川副委員長

実際にどれだけ時間を取ってもらえるかは想定しておいたほうがよい。議題が終わった時点だと遅くなったりする。目安を示したほうが相手も皆もやりやすいかと思う。

三浦委員長

それについて意見はあるか。

川上委員

地域協議会が開催されるに当たり、テーマを持ってされると思うので、少なくとも15分や20分にまとめておかないと。しかもトップにやらないと。今回の説明だけにするなら5分か10分程度でよいと思う。次からの意見を聞く分もテーマがあるので、30分くらいにしたらいよい。やるならまた、これだけのために1時間取っていただくとか。

三浦委員長

30分程度。

川上委員

時間を決めれば、まとまった意見も出るだろう。

三浦委員長

ほかに、もっと長いほうがよいなど。ほかにも議題がある中で、これだけで1時間というのは難しいと思うので、30分程度というのを基準に検討していく形でもよいか。

野藤委員

各自治区の協議会が終了した後にやるのだろう。

川上委員

地域協議会が何かのテーマをもとにして開催されるのであれば、この分を先にやっておかないと、後のテーマが延びる可能性があるので先行でやったほうがよい。執行部からの報告事項については先行である。結局6時半から始めて8時や8時半になるので、その辺はしっかり先行で全部やるのが一番よいと思う。

- 野藤委員 理解した。
- 村武委員 執行部がいる中でやるのか。
- 川上委員 もちろん。
- 澁谷委員 目的が書いてある。議会広報広聴と言いながら、合併からこの15年の間に地域協議会との意見交換会を1回もしたことがない。そういう中でやってみようという声が出てきたので、あまり難しく考えなくても。毎年やろうというのではなく、まずやってみて、どういう形がよいか考える形でよいと思うのだが。
- 西川副委員長 年に何回やるかもまだ決まっていない。各地域協議会でも都合があると思うので、例えば半年に1回などと持ちかけて、各地域協議会によってやり方が違い、時間帯も昼のところも夜のところもある。先がよい、後がよいというものもある。今回ならテーマが軽いのでよいとか。個別にやっついていかないと、一斉にやるのは難しい気がする。各地域協議会と打ち合わせしないといけない。
- 川上委員 澁谷委員が言われたように、ずっとやっていないことなので、初めての機会としてまず話を聞いてみよう、それから次のことを考えればよい。なるべく早めに一度やる方向で、次については今後検討する。それでよいのではないか。
- 三浦委員長 皆はどうか。
- 野藤委員 それでよいと思う。
- 三浦委員長 来年度早々に伺う機会を設けたい。それに向けて今年度中に、そういう意思がこちらにあることを地域協議会の方々に言っておきたい。中身については年度当初に仕組みが変わるところなので、そういったテーマがないかというご意見もあったが、一度行って話を伺ってみようではないかと。各地域協議会でやり方や進め方が異なるとのことなので、これについては都度意見をいただきながら、次回以降についても協議させていただきたい。
- 川上委員 26日の臨時会議の最後にでも、それを潜らせたほうがよい。というのも金城はどうも2月の初めころに思うので。少しでも早目に動いたほうがよい。
- 小寺書記 イメージは2月5日の全員協議会で皆に周知しようと思っていたのだが、それでは遅いだろうか。
- 川上委員 遅いように思う。
- 三浦委員長 せっかく金城が2月頭に1回されるのであれば、それに間に合うタ

イメージで皆にご説明しておいたほうがよいかと。それまでに正副議長に相談に行かなければ。前倒しで調整することとしてよいか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにさせていただく。

(2) その他

三浦委員長

各地域協議会との意見交換会について、その他何かあるか。よろしいか。

(「はい」という声あり)

4 その他

(1) 委員会開催日程の変更について (提案)

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

紙面スケジュール的に、前倒しにしたほうがいろいろと原稿作成の時間もつくれるので、どうだろうか提案するものである。

澁谷委員

具体的にはどうなるのか。

小寺書記

今回で言うと、議会運営委員会が2月17日にあるので、24日までの18日、19日、22日くらいで次の委員会を行って、その中では議会だよりV o l . 61、5月1日発行についてページ割り当てや担当者を協議するイメージなのだが。

澁谷委員

議会運営委員会の後にすれば皆集まりやすい。

小寺書記

何かの委員会が開催される後であれば、ということなら議会運営委員会の後というのも選択肢の一つかと思う。別日を設けるのも。

笹田委員

議会中ではだめなのか。

小寺書記

初日の全員協議会でできれば締め切りのアナウンスをしたい。

三浦委員長

紙面づくりにおいてはスムーズに行く。

澁谷委員

候補日程は。

三浦委員長

例えば17日の議会運営委員会が終わって午後。別日なら18日。19日は自治区制度等行財政改革推進特別委員会が午前中にあるので、午後とか。

野藤委員

やりやすければそのほうが。

(「議会運営委員会の後で」という声あり)

三浦委員長

では17日の午後1時から。

笹田委員 そうするなら今後も議会運営委員会の後にするということをルールづけすれば。

三浦委員長 そのようにすれば、作業的には余裕を持ってできるかと。

小寺書記 では試行的にはあるが、1回やってみる。

三浦委員長 2月17日の13時からということをお願いする。

(2) 読者アンケート回収ボックスの確認について

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 確認を、どういう形でもよいと思うが少し認識に誤差があったので、改めて確認したいと思った。毎月回収か、次の議会だより発行までの回収か。ボックスに残っていることを気にされる場合もあるかと思い、できるだけ早く回収するほうがスタンスとしてはよいかとは思いますが、掲載が議会だより発行のタイミングなので、ボックスに残っていてもきちんと回収できれば問題はないのだが。

笹田委員 今のところ数が少ないし、入っていないところも結構ある。そうするとこれなら2月末が締め切りなので、そこでよいのではないか。増えてきたときに考えればよい。今は毎月行ったところで入っていないことが結構多いので。今のところは十分事足りるのではないか。

芦谷委員 公民館と市役所とは逡送便がある。公民館の人に少し話をして、公民館利用者に書いてもらうことを勧めるとか、逡送便で機械的に議会へ帰ってくる仕組みのほうが。もちろん議員もしなければいけないが、むしろ公民館に日常的におられる人に少し気を配ってもらえればよい。

三浦委員長 そのあたりはどうか。公民館の方に協力を求めるというのは。当初ボックスを置くときにもお話には出ていたと思うが。

小寺書記 お願いすることはできると思うし、お願いすれば多分対応はしていただけると思うが、設置したときから、議会主導でやるということでそれぞれ担当を決めて取り組んだ部分でもあるので。

 しかし変更することについては問題ないかと思う。

近重書記 恐らく原課である生涯学習課と話をしてみないことには。一番気にされるのは現場の負担が増える点。協議が必要かと思う。

芦谷委員 負担が増えると。

近重書記 要はこちらの活動に対して向こうが定期的にそういう作業をする

というところがちょっと。

芦谷委員

せっかく公民館がまちづくりセンターに変わる。したがって公民館の人の負荷になってはいけないが、まちづくりのことで議会が言ってきたものについての窓口くらいはやってもらわないと、まちづくりセンターの機能を果たすことにはならない。その辺は上手に言って協力してもらったほうがよい。

佐々木委員

我々が簡単にできるのはそういうことで、もしやってもらえればよいのかもしれないが、基本的に公民館は市の施設であり議会とは全く関係がない。そういうことをやってもらうなら大前提に、まず公民館長に、個々にでもよいし会でもよいので、議会としてこういうお願いがあるのだがと、まず理解を求めて、了解が得られれば各公民館の主事なりへのお願いになると思う。段階をまず踏むことと、もう一つは議会として公民館にそこまで甘えるのもどうなのかという気はする。以前アンケートを取るとき、公民館の館長会に出向いて直接皆にお願いしてやってもらった経緯がある。そして終わったらまたお礼を言って。そういう節度あることをやっていかないと、ずるずるではあまりよくない気がする。

西川副委員長

最近、議会報告会や地域井戸端会など、公民館との関係ができてきたと思う。今回も議員が数か月に1回行くことで議会と公民館のコミュニケーションが取れるのも、目的の一つではないかと思うので、公民館の人の手を煩わせて送ってもらうよりも議員が行って回収したほうがよいのではないか。

野藤委員

私も西川副委員長と同意である。毎日行けというわけではないので、様子を見ながら走っている。私も現状で負荷はない。

小川委員

頻度の関係なのだが、僕は毎月だと言われた気がして毎月行っているのだが、月初めは行っても休館の日が多い。僕らは公民館の定休日はわからないので。実際、毎月行ったとしても、入っていた意見を集約して出すとしても次の号にしか出せないとなると、毎月行く必要はないのかと思って。皆に聞いたら3か月ごとでよいという人もいて、皆認識が違うようなので整理したほうがよい。僕は今回で言うと次は3月頭に行けばよいと思う。そういう形で年4回行けばよいかと思う。そのとき、公民館に確かめて。行っても休みならあれだけでも、その辺がわかりにくい。そういうときに公民館に電話して、悪いが箱の中に入っているかどうか見てくれというのが、よい

か悪いかも悩みだった。それも負担だと言えば負担だし、そこへ行くことも目的だしということがあって。しかし行くのは行っている。3か月ごとならまだそれほど負担ではないかと思う。頻度だけは、それでよければそうさせてほしい。

村武委員 　私は3か月に一度、我々が取りに行くのがよいかと思う。ただ、私は1か月ごとでも忘れてしまったりするので、行くタイミングのときにメールでアナウンスしていただけると大変うれしい。

三浦委員長 　今ご意見を伺ったが、直接伺って公民館の方々とコミュニケーションを取るのも一つの目的ではないかというご意見もあり、頻度をこの発刊の前に合わせて、3か月に一度回収しに行くということで。忘れないように事務局からリマインドはいただく。そういう形で進めていくことでいかがだろう。大丈夫か。

小寺書記 　締め切り後の、今回で言うと2月末までのことなので3月頭に確認していただいて、内容については次の号に載せるということで。5月の号が出たときには6月の頭に確認してもらうということで。よろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

三浦委員長 　1点、芦谷委員から、まちづくりセンターになるというご指摘もあったが、もちろん市民の方々の地元の暮らしの様子など、全部直結していることなので、こういう機会に公民館の方とコミュニケーションをしっかりとっていくことも少し念頭に置いていただいて。ご足労いただくことになるが、引き続きよろしくお願ひしたい。

議題は以上であるが、ほかにはよろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

小寺書記 　では次回の委員会だが、さきに話をさせていただいたとおり、2月17日の議会運営委員会がある日、水曜の午後1時から第4委員会室で開催ということでよろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

三浦委員長 　では次回、2月17日13時によろしくお願ひする。
以上で議会広報広聴委員会を終了する。

〔 11時 48分 閉議 〕

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀